

檜原憲法九条の会ニュース

No 37

事務局・連絡先 樽門 075-391-0567 下山 075-392-3861

守ろう！
憲法九条
21世紀の宝



池田桂子作

憲法壊す者 久しからずや 大河は流れる 明日に向かって



桂川（桂大橋より上流を望む）
2018・10・22撮影
（豊）

中村文則のつぶやき おごれる人 久しからず

平家物語に盛者必衰おごれる人も久しからず、と有名な言及がある。栄えた者も必ず衰えるのだし、地位や財力に思い上がっている人間は、いつか終わる。日本の感覚の中に、これらの言葉は自然にあるように思う。だがもう終わるべきタイミングにあることが、いつまでも終わらず続いている。

不当な法案の強行採決の連続、モリカケ問題、デタの捏造（ねつぞう）、公文書改ざん・破棄、外交の失敗の連続。あらゆることをしても終わろうとせず、自民党総裁は2期とのルールまで変え3期まで始めている。

しかしここに来て、さすがに無理が現れている。

強行採決

- ① 特定秘密保護法
2013年12月6日。憲法 22条の国民の知る権利を侵す、と紛糾。
- ② 安保法制(戦争法)
2015年9月19日。戦争法で自衛隊を海外へ出すな！アベ政治を許さない！の市民・野党の国会デモ。
- ③ 共謀罪
2017年6月15日。テロ以外の一般人が監視対象にされる、として紛糾。



中村文則氏
小説家・作家
(毎日新聞の公開記事より)



どんぐり
団栗帽子

幼稚園で

アへ晋ちゃん
と

イシ茂くん

茶番劇は終わった

けれど

アソ太郎くんや

スカ義くんや

カタマさつきちゃんたちの

舞い踊りが始まって

本も読まない

カケくんの

一人芝居まで

見せられては

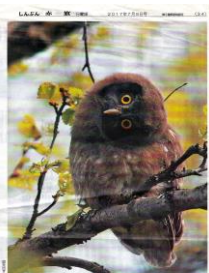
沖縄選挙での

感動的ドラマに

浸ってばかり

いられません

誠



ふくろうは
知っている

《大太平洋戦争》生き地獄をさまよう・

私は若い通信兵だった

南区久世 池田千秋 92歳

寄稿・語り

昭和16年、15歳で中国北京に渡り中国鉄道学院で学び、華北交通の通信士となる。太平洋戦争勃発後は通信兵として戦う。日本の敗戦で戦乱の生き地獄をさまよう。20歳の一時期、国民党軍(蒋介石軍)に入り共産党軍(毛沢東軍)と戦う。22年、機を見て脱出、戦犯となり米軍の上陸用船艇で九州の佐世保に帰国。青春時代の6年間、戦地中国での数奇で過酷な戦争体験です。

特攻の戦友に

申し訳ない

92歳を超えた、今想うのは国家の為とは申せ若くして(20歳前後)散華した特攻の戦友に申し訳ない気持です。

もう戦争だけは絶対したらあかん!

顧みれば、昭和16年3月28日高等小学校卒業時(15歳)に満州開拓団に指名され、4月2日大分県佐伯を後にし、門司港より鴨緑丸7500吨で出港、大連経由で北京へ到着しました。そこで見た広大な城壁と物資の多いのはびっくりしました。

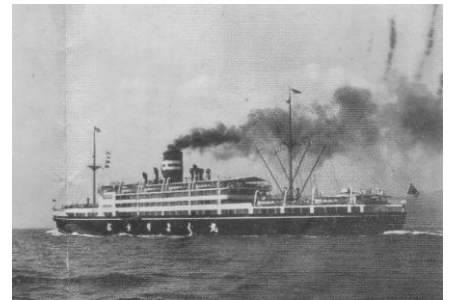
入学した中鉄学院の東側は城壁があり、日本人105名、中国人400名の全員寮生でした。学校ではトンツー、トンツーと電信符号を記憶するのに夜昼なく練習。電文の8文字を誤受信すると不適正となり、退学で内地に送還されるというので必死でした。無線有線の通信士合格で華北交通の徐州電信所配属となりました。

赴任先の宿の土壁には無数の弾痕生々しく銃声が聞こえてくる。小皿に種油の灯芯わずかな明かりに「此処は戦地」だと実感し一睡もできませんでした。

水不足と

非道な軍隊生活

青年隊は200人程度。毎日6時起床、皇居礼拝、社歌、青年隊歌を歌い剣道、銃剣術の訓練後に朝食作り。徐州は井戸水が出ません。大八車に木箱を乗せて2kmほど南の旧黄河の水を交替で運んできます。食事第一で風呂は土曜日のみ、当番は駅班、機関区班、電信所班と職場毎。戦地の上に水不足で洗面も洗濯も出来ず軍隊に入って風呂は6カ月に一度だけ。今では考えられんこと。だが「欲しがりません、勝つまでは」を合言葉にしていた。「鉄砲にほこりがついている」といきなり並ばされ、濡れタオルで首から頬をしばかれる初年兵。古参兵の非道な暴力に耐える日々だった。



鴨緑江丸 7500 吨

昭和19年、スウ県に移動。すでに日本側には制空権無く、線路から3km範囲の点と線を支配するだけ。列車を出すたびに米軍機P51が3機編隊で飛来し機関士を撃たれた。夜は地雷で歩けず。

昭和20年、北京の航空通信隊に入隊、天津航空隊で特攻隊出撃を多く見送りました。盃を交わし白たすき姿で「お世話になりました」と飛立った機影が消えても、なお千切れるほどに帽子を振って見送る女学生等の姿が、今でも脳裏に浮かび申し訳なく怪しい気になります。

敗戦の地で一人ぼっち

終戦により現地除隊、遠く近く銃声を気にしながら鐵路に沿って一人で徐州(800km)へ向けて南下。鉄道で北上して行く日本人と情報を交換。国民党軍と共産党軍間の内戦激化で通行不可となった無人の駅舎で仮眠。帰国者が置き去りにした衣類を物々交換して生活する。

21年3月になってやっと徐州に帰着。しかし、飛び込んだ鐵路局には、もはや、日本人は一人も居ませんでした。20年末までに全員帰国したと聞きビツクリがっかり。持っていた聯銀券(銀行券)は紙屑同然、前途不安でどうしよう?と困り果てました。

生き地獄、糞や水を売歩く

生きるために手掛けたのは、当時の中国の各家にはトイレが無く毎朝玄関に出す。その糞を拾い肥料として農家に売歩いたり、溜池から水を汲んで一輪車で売歩いたりするなど生き地獄でした。

ある日、街で国民党軍の兵員募集ビラを見たので応募し将校扱いの通信兵(特秘日本兵)として入隊した。満腹に食えるようになったが、しかし日本人として悟られないように洗面や食事のやり方に気を付けた。入隊して目にしたのは日本軍の武器とともに多数の軍馬と軍用犬が接収されており、中国兵に叩かれ前足を上げて嘶く軍馬を見るたびに不憫に思った。軍が宿県に移動、共産党軍との戦いが激しくなる。敗戦後生きさんが為にどちらかの軍に入っている日本兵同志が戦う悲劇も起った。21年12月末に軍を脱出、上海の戦犯収容所に入りました。そして、昭和22年1月3日、米軍の上陸用船艇で佐世保に入港、6年ぶりにやっとの思いで帰国できました。

忘却を思う

（第4回 『西日本豪雨災害 編』）

精神科ソーシャルワーカー 山田 龍亮

普段何気なく目にし、使い、飲んでいる水。生命が生きるために必要な水。生命の源。その力に、決して人間は及ばない。

* 災害のたび、自然の一部としての人間の在り方を考えます。

今年七月六日。降り続く豪雨と濁流となつた桂川は、普段の静寂など一切感じさせない自然の猛威を露わにしており、周辺地区に次々と避難勧告が発令される中、私にあったのは強い恐怖感と無力感でした。

二〇一三年九月の台風十八号を凌ぐ大きな被害が出ると予想されていた京都で、だから何をすればいいのか解らないまま夜を迎え、不安のまま眠りについたのでありますが、あとになって思えば眠りにつく余裕があったとも言えますし、

危機感が欠如していたとも言えるでしょう。いざという時も結果的に、京都には予想されたほどの大きな被害はなく、翌朝のテレビに映し出されていたのは水没している岡山県倉敷市真備町の様子でした。

屋根の上で助けを待つ人。そのすぐ傍まで迫っている茶色い水は、まるで湖のような静かな水面で、東日本大震災のときにテレビで見た猛烈な勢いで迫る津波とは全く違う、静かで不穏な恐怖を感じました。――



写真① 小田川。氾濫したとは思えない穏やかさ



写真② 高架橋まで水位が上がった。



写真③ 水の跡が残っている

十月八日、岡山県総社市・倉敷市真備町に行く機会がありました。現地のために具体的な何かができるわけではない私ですが、「忘れない」支援のために、今回からレポートを連載したいと思います。

投稿

おつきさんこんばんは

檜原下ノ町
前田洋子 70歳

秋の夜、ベランダで虫の声を聴きながらおつきさんを見るのが楽しみです。

昨日などは、どこまでもあおくあおく神秘的なおつきさんにうつりました。

先日、コーポの方に望遠鏡をのぞかせてもらいました。ナント、月の痘痕のようなクレーターが見えました。宇宙のことは分かりませんが、おつきさんは私には身近なのです。

「おつきさんがついてきよるばい。なんでね？」

「おつきさんにうさぎがおるとね？」

「そうばい、もちをつきよろうか？」

「うちのことがみえとるよろうか？」

子どものころ、夜道を歩きながら今は亡き母親とこんな話をしていたので思い出して気持ちがおぼんわかします。

人間が宇宙に侵入してほしくないなんて、宇宙を研究している方には失礼かな。

子どもや孫にもおつきさんがきれいに見える地球を残さなくてはいけません！

投稿

戦争の悲惨さ、

忘れてはならない

浮島丸事件



その惨状を目の前に見た佐波賀の人達は、小さな伝馬船や船外機付きの船で何回も救助したのです。地元有志によつて昭和53年、その時の惨状を8人の群像に刻み造つたのです。

謎の多い浮島丸事件

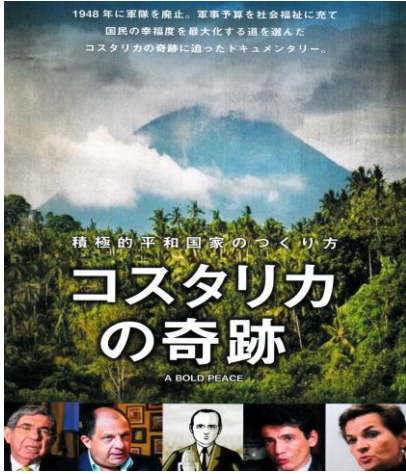
- ①なぜ舞鶴湾にきたのか
- ②なぜ下北だけ急に帰国させたのか
- ③爆発の原因は何か
- ④なぜ国は詳しく調査しないのか

この事件を今の安倍政権の、嘘とごまかし、隠蔽、改ざんを重ねてみて、恐ろしい思いに駆り立てられます。

真実を国民に知らせる国の責任を投げ出したら国民のための政治ではないと思う。朝鮮人労働者の冥福を祈り平和の決意新たに。

檜原芋峠 藤原克東

下北の大湊港から何千人もの人たちを乗せ22日に出航、ところが浮島丸はなぜか途中舞鶴湾に入つて、佐波賀(さばか)の沖で爆発沈没したのです。



ドキュメンタリー映画

「コスタリカの奇跡」上映会

11月25日(日)

1回目 10時~11時半

西京区役所2階

2回目 14時~15時半

新林会館2階

チケット: 700 (一般)
(協力券) 400 (大学生)

ご希望の方は下記まで
TEL 75-394-5996
(西京上映実行委員会)

九条文化のひろば

○ 大惨事(第三次)安倍内閣の

命脈も大暴落のお祝儀相場

○ 見加計倒し 大見栄切つて

記者会見 思惑外れ消火に油

(権田町 林天流九六翁)

○ 自衛隊夕焼け小焼けの曲流す

(檜原 斜山)



お湯のみ 彩華作

彩華(あやか)陶芸上絵付師の本名は沖田文字さん。清水焼歴48年の大ベテランです。今も岡南ノ庄の自宅と工房で作陶している。

「伝統産業が衰退してきていることに心を痛めている」と言われた。

(インタビュー 豊)

3000万署名

アベ九条改憲を絶対やめさせよう!
もうひとガンバリです!あと170筆

国会で改憲発議が行われないようにするため、署名活動に全力をあげています。

大きなご協力をお願いします。

★ 署名用紙は事務局よりお届けします。

(事務局の樽門/下山まで連絡してください)

編集後記

沖縄では知事選挙をはじめとして「オール沖縄」が選挙に連勝した。

憲法が一番蹂躪(じゅうりん)されている沖縄から政治を変えたい大きなうねりが起っている。

戦争はイヤ!

平和を願うわたしたちの希望
平和憲法Ⅱ九条を変えさせたいけない。

一緒に声をあげましょう。

(中山)